

蔵の中

山中康仁
松原留美子

中尾 彬
吉行和子

製作 ● 角川春樹
原作 ● 横溝正史
監督・撮影 ● 高林陽一
音楽 ● 桃山晴衣
遊びをせんとや生まれけん
(エンターレコード)

配給 ● 東映
角川春樹事務所作品



閉ざされた世界に生きる姉、おとうと。 一夜の夢か、幻か、幻想と耽美メッセージ。

●結晶する大正ロマンチズム！
閉ざされた「蔵の中」で、いったい何が起ったのか。そこには、世人の想像を絶する美と幻想の世界が存在していた。稲光りが絢爛と照らし出す、この世ならぬ愛のかたち。地獄におちるか、姉おとうと。燐光のように無気味に、現代に復活する耽美浪漫の世界。そして、遠眼鏡を接点にして描かれる現実の修羅の愛、それをも包みこんで妖しく濃密に脹れあがる魔性のロマンチズム。

●横溝文学、幻想の系譜

原作「蔵の中」は、鬼才、横溝正史が、昭和10年8月に、雑誌「新青年」に発表した傑作である。横溝文学といえば、昭和21年「本陣殺人事件」でデビューした名探偵・金田一耕助の系譜が、その綿密に考え抜かれたプロット、独創的な論理によるトリックで、世にあまねく知られているが、「蔵の中」を代表とする「鬼火」「面影双紙」「かひやくら物語」などの怪奇と幻想の系譜も、その完成度、純度の高さで、高く評価されている。泉鏡花調の濃厚な凄絶さと、谷崎潤一郎の悪魔主義的な傾向がミックスされた「蔵の中」は、初期の名作として、発表以来、数々の出版社から刊行、版を重ねていた。



一監督が、今ふたたび、横溝文学の原点のひとつといえる、この作品に挑戦する。「金閣寺」「西陣心中」「ザ・ウーマン」と、日本人ならではの情念の地獄を、ある時は隠微に、ある時は華麗に、映像化してきた高林監督が、「蔵の中」では、その集大成を狙い、監督のみならず、企画・撮影をも担当、賭ける意気込みも只事ではない。

●妖美な世界の個人的なスタッフ・キャスト

脚本は、怪奇、幻想、ミステリーの世界に造詣の深い、「HOU SE・ハウス」の桂千穂。音楽を、三味線を持ったシンガー・ソングライターとして、若者たちに広い共感を呼びつつある、桃山晴衣が、映画音楽を初担当。

ヒロイン・小雪を演じるのは、映画初主演、ヘニュー・ハーフ女優として、その倒錯美が、この映画の雰囲気にも最もふさわしいものとして抜擢された、松原留美子。

小雪の弟である美少年・笛二には、「影武者」の新人・山中康仁。他に、「本陣殺人事件」以来、高林映画には欠かせぬ存在となった、中尾彬。「愛の亡霊」「神様のくれた赤ん坊」の吉行和子、「桃尻娘」「赫い髪の女」の亜湖、「Keiko」「炎のごとく」の、きたむらあきこ、など、妖美な錦絵、草双紙の世界にふさわしい個性的な面々が、顔を揃えている。

蔵の中



この「蔵の中」は角川作品としては全く新しいチャレンジになるであろう。ローバジェット(低予算作品)である点だけでなく、映像世界に別な面でトライアルすること——世界各地の映画祭にも充分に受賞対象として認めうる可能性を秘める作品を製作する点を強調したい。

角川春樹

10月3日(土)ロードショー

●特別鑑賞券 ¥1,200 (当日一般1500円(の処) 学生1300円) 発売中!

有楽シネマ (201) 3066

新宿東映ホール・1 (351) 3022

●近日ロードショー

渋谷東急名画座 (407) 7229

日・祝 10:50 平日 12:40 2:45 4:50 6:55 連日 11:00 1:00 3:00 5:00 7:00 日・祝 10:40 平日 12:30 2:30 4:30 6:30